



まほろばの丘から



令和5年12月20日 文責 校長 江口 尋信

国際理解教育 ～「自立」と「協働」～

本校は、長年に渡って、姉妹校交流をはじめとして国際理解教育を推進してきた学校です。校門には、「国際理解は人間理解」という理念が掲げられています。わたしは、「人間理解」については、「人間」は一人で生きながらも、支え・支えられる関係にある社会的存在であることを理解して生きることだと考えています。そのために、大切にしたいことは一人一人の「自立」と、みんなで目標を共有し成し遂げる「協働」です。このことは、学校の様々な教育活動として現れています。

自立の姿として



左の写真は、長方形の折り紙を折って正方形を作る方法を考えている2年生です。あてもない、こうでもないと、何度も試行錯誤をくり返す姿が見られます。右の写真は、廊下を掃除する6年生です。廊下をきれいにするため、一人で黙々と磨いています。これら、没頭・集中する姿は、「自立」の現れです。

協働の姿として



左の写真は、音読をする3年生です。この学級では、一人の子に向かって音読を聞かせるために、友だちに向けて音読をしています。右は、算数で自分の考えを説明する5年生です。どうやって考えたのか聞き合い、理解を深めます。声を揃えてみんなで読む、考えを出し合い共有する姿は「協働」の現れです。

国際理解教育とは、狭い意味では、自国や他国の文化・慣習等を互いに尊重し、それらへの理解を深めていくことです。しかし、わたしはそれだけではなく、変化の激しい国際社会をしなやかに生き抜く基盤を育てることも大切なことだと考えています。その「基盤」となるものが、自分でやろうとする「自立」と、みんなと共にやろうとする「協働」と考えます。これからも、写真で紹介したような場面をたくさんつくって、子どもたちの可能性を伸ばしていきたいと考えています。